

定例公安委員会の開催状況について

令和5年3月2日（木）に、第7回定例山形県公安委員会が開催されました。議事の概要は次のとおりでした。

1 令和4年中における苦情取扱状況について

令和4年中における苦情取扱状況について報告があった。

委員のコメント

- 現場で県民と接する警察官の対応が警察に対するイメージを大きく左右する。不適切事例の具体的な内容を職員全体で共有しながら教養してほしい。
- 苦情にならないよう心掛けるあまり現場の警察官が萎縮することのないよう、適切な指導教養に努めてほしい。
- 県民にとっては警察官から威圧的な言動をされると反感を抱くのは当然である。警察職員は県民に対して常に目線を下にといい気持ちで接してほしい。

2 令和4年度 警察官・警察行政職の採用募集活動の推進結果等について

令和4年度警察官・警察行政職の採用募集活動の推進結果等について報告があった。

委員のコメント

- 一般的に警察という職業は子供にとってカッコいい仕事という印象を持たれている。小、中学生のうちから規範意識を持たせて将来の採用募集につながるためにも、警察官が地域と関わる機会にこまめに警察という職業の魅力を発信してほしい。
- 警察の魅力を発信するという観点では、ワークライフバランスの推進とともに職場環境の整備が進んでいるが、更に住環境についても配意願いたい。
- 社会情勢の厳しい中、山形県警察の地道な採用募集活動が奏功した結果であるが、人材の確保に向けて更に努力してほしい。

3 冬山遭難救助訓練の実施等について

令和4年中の山岳遭難発生状況及び令和5年2月に実施した冬山遭難救助訓練等について報告があった。

委員のコメント

- 事故防止の注意喚起をする中で、遭難することによって金銭的負担も大きくのしかかることを周知して、登山者やスキーヤーに危機感を持たせてほしい。
- 日本の山は、バックカントリーをスキーヤーが滑ることによって雪崩が誘発されやすい特徴がある。季節を問わず山岳遭難救助訓練は大事であり、警察官自らの命を守ることもつながる。
- バックカントリーの滑走には規制がないため、今後も同種事故防止には配意が必要である。時代の流れ、流行の先を読んだ対策を検討する必要がある。

4 令和4年中における運転免許の行政処分執行状況について

令和4年中における運転免許の行政処分執行状況について報告があった。

委員のコメント

- 飲酒運転による取消件数がまだまだ多い。特に若い年代に多い。心に響く注意喚起が必要である。
- 病気処分で認知症とともにてんかんも増えている。世界的に加齢によるてんかん患者が増えているため、交通事故を引き起こす要因にもなっていることに配慮が必要である。
- 飲酒運転による被処分者の中には、これまで反復して飲酒運転していた者が散見される。広報啓発が浸透しているのか検討してほしい。

5 災害の発生に備えた事態対処能力向上訓練について

災害の発生に備えた事態対処能力向上訓練について報告があった。

委員のコメント

- 反復訓練が大事である。災害時の活動における女性への配慮についても再確認してほしい。
- 酸欠暗所現場からの救出救助活動は、二次被害の危険性が高い。訓練を重ねて練度を高め、自らの身も守ってほしい。
- 常日頃の訓練が本番での落ち着いた活動を引き出す力になる。警視庁など他県警と連携して技術を習得し、県民の安全安心に貢献してほしい。